

令和6年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について

重 点 目 標	関連する評価指標		令和6年度 目 標 値	令和6年度 実 績 値	達成率	自己点検・自己評価	外部評価
	基本的 運営方針	評価項目					
1 地域の情報拠点としての情報資源整備 (1) 蔵書構成の再検討や中長期的な収集方針に基づく資料選定を行うとともに、県民の多様なニーズに対応する資料の収集、適切な資料管理と保存環境の改善を進める。 (2) 山梨県図書館情報システムを活用し、デジタル化資料の充実と利用促進を図るとともに、webサービス等を活用した情報提供に取り組む。	I	(2)貸出	371,732点	344,057点	92.6%	・収集基本方針に基づいた資料収集に取り組み、概ね目標値に達することができた。引き続き、多様化する利用者ニーズと課題別、対象別サービスの充実につながる重点収集分野を設定し、図書館サービスを支える資料収集を目指したい。また、物価高騰の影響により、書籍価格が上昇傾向にあり、購入冊数への影響が危惧されることから、計画的な資料収集に努めたい。 ・子ども読書支援センター資料では、支援センターの活動強化のため、昨年度に引き続き学校支援セットのリニューアルに取り組んだ。また、ネパール語やアラビア語などの絵本を中心に、外国にルーツを持つ子どもたちが母国語に触れる機会を提供するための多言語資料の収集にも努めた。 ・地域資料においても、館内サイネージを始め、ホームページやSNS、山梨県職員ポータルサイト掲示板等を活用し、定期的に地域資料寄贈の呼びかけや自治体の刊行情報収集と積極的な寄贈依頼に取り組み、資料受入をすすめたことで、目標値に達することができた。 ・ホームページへのアクセス件数は、前年より数値は上がったものの目標値の達成には届かなかった。新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せた後、減少傾向にあったが、ここ数年一定の利用数を保っている。令和6年度は、より使いやすいデザイン・構成を目指し、スマートフォン対応とホームページの全面的リニューアルを行った。また、ホームページを活用し、デジタル化資料の充実とWEBサービスの活用をすすめるための広報活動に取り組み、アクセス件数の増加を図りたい。 ・ウェブ会議システムを活用し、講演会や研修会などは会場での直接参加とオンライン・配信を組み合わせで開催している。時間や場所の制約なく参加できることから好評を得ており、参加者も増加傾向にある。	・資料収集は、所蔵資料・地域資料寄贈受入・子ども支援センター資料・課題解決資料において、概ね目標値を達成しており、県民の幅広いニーズに応えるための取り組みを進めている。また、利用者アンケートでは約80%が「蔵書が充実している」と回答しており、収集基本方針に沿った適切な選書が成果を上げている。 ・さらに、市町村立図書館では収集困難な専門領域の分野において、基本的な資料を適切に収集しており、相互貸借を通じて地域の学びを広くし、教育や研究など大いに成果をあげている。限られた予算の中で、網羅的に収集することは難しいと思うが、今後も適切に精査しつつ資料の充実を図っていただきたい。 ・一方で、同アンケートにおいては、「専門書」や「新着図書」の不足も指摘されていることから、限られた予算のもとでも、専門性の高い資料の充実と量的な蔵書の拡充だけでなく、質的な要望への対応が今後の課題といえる。 ・今年度も、多言語資料や地域資料の収集、さらにデジタルアーカイブの拡充など、幅広い取り組みが行われ、基盤整備が着実に進んだ。引き続き、デジタル化資料の充実とWebサービスの拡充を進め、遠隔地や時間的制約のある利用者もアクセスしやすい環境を整備することが望まれる。 ・ウェブ会議システムを利用した講演会などは今後も利用が拡大していくと考えられることから、引き続きの取り組みを期待する。
		(3)相互貸借	6,428点	5,628点	87.6%		
		(4)所蔵資料	1,058,288点	1,060,189点	100.2%		
	II	(7)地域資料寄贈受入	1,100点	1,224点	111.3%		
		(9)ホームページアクセス	254,100件	244,569件	96.2%		
	III	(13)多言語資料所蔵数	10,112点	10,114点	100.0%		
		(16)主催研修参加者	705人	753人	106.8%		
	IV	(17)子ども読書支援センター資料	3,325点	3,012点	90.6%		
		(18)課題解決資料	2,765点	2,520点	91.1%		
		(23)地域資料	102,043点	101,636点	99.6%		
	VI	(24)デジタルアーカイブ作成	3,000枚	3,135枚	104.5%		
2 レファレンス・サービス及び障害者サービスの充実・周知と中高生の利用促進 (1) 県民が図書館の資源を有効に活用し、知識や情報を得るためのレファレンス・サービスや、図書館資料の利用に障害のある方へのサービスを充実させ、周知する。 (2) 中高生との協働や学校への情報提供により、中高生の読書活動の推進と図書館の利用促進を図る。	I	(1)入館者	645,000人	683,423人	106.0%	・入館者の目標値は上回ったが、コロナ禍後の利用制限緩和を受けて大幅に増加した前年に比べると減少した。行動制限が終了して約2年が経過し、人々の行動範囲の変化が少なからず影響していると思われる。また、個人貸出数は目標値に届かなかったが、若干増加した団体貸出数から、団体貸出を通じて間接的に一定の非来館者にも資料が活用されていると推察する。 ・身近な市町村図書館を通じて利用者が当館の資料を借りる相互貸借は、前年と比較して横ばい状態となった。また、当館で借りた資料を近くの図書館で返却する「広域返却」サービスも含め、コロナ禍前の状態に戻ったと考えられる。効率的な資料搬送体制による支援サービスに取り組むことで、市町村図書館への協力貸出の増加につなげたい。 ・調査相談件数は、目標値には達しなかったが実績値は前年より増加した。広報活動の強化に努めているところであり、レファレンスサービスが認知されつつある。引き続き、レファレンスサービスの周知と多様なレファレンスに対応するための調査環境の整備に取り組む。 ・地域レファレンスにおいては、前年の実績値より減少したものの目標値は上回った。地域の事項については一次資料の調査が必要になる場合が多いため、職員による支援が求められると考える。 ・読み聞かせやブックトークなどを中心に、学校や市町村図書館のボランティア養成講座等への講師派遣を行った。引き続き、ニーズに合わせたプログラムの検討や周知などの強化を図るとともに、課題となっている講師の育成に向け、外部研修や館内研修の機会を設け取り組んでいる。 ・中高生の利用促進への取り組みとして、甲府第一高等学校と連携し、普通科1学年の探究の時間における当館の活用に関する授業へ資料提供を行った。また、探究科1・2学年の探究班の各班長を対象に、当館司書が図書館資料の活用に関するレクチャー及び館内見学を行い、図書館利用を促した。 ・子どもたちの読書活動、探究活動を支えるために整備した、学校支援セットにブックリスト『いいね！の本棚』の中学生編と高校生編を新規に追加し、中高生の読書活動推進及び利用促進に注力した。 ・「りんごの棚(バリアフリー図書コーナー)」の資料を活用し、バリアフリーおはなし会を実施するとともに、当館の障害者サービスについて、近隣眼科医院へのチラシ配布など、広報活動を強化した。	・地域レファレンスの提供、SNSの活用、校外学習での図書館利用など、特定のターゲット層を意識した取り組みにおいては、目標を上回る成果が得られており、高く評価できる。 ・入館者数も増加傾向にあるものの、貸出や相互貸借の実績が目標に達していないことから、来館者の資料利用を促進するための更なる工夫が求められる。 ・利用者アンケートでは、レファレンスサービスを受けた人の約95%が「満足」と回答する一方で、約半数が、レファレンスサービスを「知らない」と答えており、認知度には課題がある。 ・対面によるサービスは、ネット世代にとっては心理的ハードルが高く、気軽に利用しづらい傾向が見られることから、ニーズ分析を踏まえたレファレンスサービスの周知と活用を広めるための効果的な対応が期待される。 ・デジタルサービスの充実は、利用者の利便性向上やアクセス拡大につながる重要な取り組みである。今後もSNSやウェブサイトを活用しながら、図書館利用者に向けて、図書館の魅力やサービスを積極的に発信していただきたい。 ・生成AIの活用が広がる中で、若い世代に図書館の魅力や資料に触れる体験をしてもらうためにも、学校との連携は大切な取り組みであり、探究活動支援をはじめ、中高生向けのブックリストや学校支援セットの充実も、中高生の読書意欲を高める取り組みとして評価したい。 ・中高生の利用が増えてくることは喜ばしい成果であるが、それに伴い座席の不足など、施設面での課題が顕在化している。快適に利用できる環境づくりに向けた、中長期的な対応の検討が必要である。 ・障害者サービスの充実も、誰もが安心して利用できる図書館づくりに向けた大切な取り組みである。今後は、アクセシビリティの向上や障害のある方への資料・情報の充実に加えて、地域の理解を深めるための啓発活動にもつながる図書館サービスを期待したい。
		(2)貸出	371,732点	344,057点	92.6%		
		(3)相互貸借	6,428点	5,628点	87.6%		
	III	(9)ホームページアクセス	254,100件	244,569件	96.2%		
		(10)メディア掲載等	329件	285件	86.6%		
		(11)校外学習利用	113件	124件	109.7%		
		(12)SNS活用件数	1,720人	1,921人	111.7%		
	IV	(14)調査相談	445件	354件	79.6%		
		(15)講師派遣	17人	16人	94.1%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,325点	3,012点	90.6%		
		(18)課題解決資料受入数	2,765点	2,520点	91.1%		
	VI	(25)地域レファレンス件数	724件	855件	118.1%		
3 図書館利用団体等との連携等による図書館の利用促進 (1) 外部の関係団体や図書館利用団体等との連携について、新たな取り組みの可能性を探り、県民の課題解決や生活に必要な情報を提供する図書館として機能拡大を図る。 (2) 交流事業・イベント等と連携した資料展示の実施など、図書館で活動する様々な団体と連携し、図書館の利用促進を図る。	I	(1)入館者	645,000人	683,423人	106.0%	・事業参加者数は、前年と比較し大幅増となった令和5年度の数値をさらに上回り、目標値に対する達成率は148%であった。要因としては、指定管理者自主事業に多くの参加があったこと、「おんがくかいぶらり」をはじめとする定員の規模が大きいイベントへの参加者数が安定していたことなどが考えられる。参加者数には含まれていないが、新たに「館長連続講座」のアーカイブ配信を開始した。114名の登録があったことから、今後も継続していきたい。 ・やまなし読書活動促進事業(贈りたい本大賞)は、目標値には達しなかったものの前年よりも応募総数が増加し、達成率の改善が見られた。引き続き学校や教育機関、書店等を通じて広報活動を行い、応募数のさらなる増加を目指していく。個人向けの応募環境として新規にフォームでの応募の受付を開始した。 ・メディア掲載件数の比重の多くを占める新聞掲載数は、ここ数年減少傾向が続いていたが、前年並みの数値に安定したため、総件数も前年度より微増となった。一方、前年度に続き、WEB上での紹介件数は、全体の26%を占め、テレビやラジオに代わる広報媒体となっている。隔月でラジオ番組に出演する企画もスタートした。 ・交流エリア利用は10万人に達し、目標値を上回った。SNSや駅広告などを通じて広報活動の拡大を図ったことで、交流エリア施設の認知が進み利用機会が増加したこと、また、利用機会の増加が利用者数増加につながり、認知機会も創出され相乗効果が起き、稼働率の向上にもつながったと考える。 ・図書館共催のイベントや県庁各課の啓発事業などと連携し、利用者が広く図書館資料や企画への興味関心を深められるよう、情報サテライト付近、ナレッジスペース等において資料紹介の連携展示を行っている。年間を通じて途切れることなく展示計画が入っており、目標値の達成につながった。当館との連携事業として定着していることがうかがえると共に、継続して交流や学びの機会を提供することができた。	・図書館利用団体との連携による利用促進は、企画展示やイベントなどを通じて継続的な参加が見られ、図書館の魅力を広げる意義ある取り組みとなっている。地域社会に多様な学びの機会を提供することは、従来の利用者に加えて新たな利用者層への広がりにもつながる可能性があり、今後も団体との協働を通じて、図書館の利用をさらに促すような場の充実が期待される。 ・入館者、企画事業参加者、交流エリア利用・稼働、連携企画事業対象団体数が、目標を上回っている。県の中心部に立地し「にぎわいの創出」という目標に沿う県立図書館に期待される役割が果たされているといえる。 ・交流エリアや企画事業などの活用により、図書館が県民の交流と学びの場として機能している成果が見られる一方で、参加者の資料利用への結びつきには課題があり、今後は交流と資料利用の相乗効果を高める工夫が求められる。 ・館長連続講座のアーカイブ配信は、図書館の新たな発信の仕方として評価できる取り組みである。今度もぜひ発展させていただきたい。 ・多角的な広報活動により、新聞掲載やWEB紹介が安定・増加し、交流エリアの認知度向上が利用者数と稼働率の向上につながっている。 ・協力会の活動は図書館運営において欠かせない存在であり、定例化された役員会を通じて、協力員の皆さんによる自主的な企画提案がさらに活発になることが期待される。
		(2)貸出	371,732点	344,057点	92.6%		
	II	(5)図書館協力員活動	1,968回	1,678回	85.3%		
		(6)企画事業参加者	9,281人	13,787人	148.6%		
		(8)やまなし読書活動促進事業	4,733件	4,422件	93.4%		
	III	(9)ホームページアクセス	254,100件	244,569件	96.2%		
		(10)メディア掲載等	329件	285件	86.6%		
	IV	(17)子ども読書支援センター資料	3,325点	3,012点	90.6%		
		(18)課題解決資料受入	2,765点	2,520点	91.1%		
	V	(19)交流エリア利用	93,680人	100,233人	107.0%		
		(20)交流エリア稼働	71.4%	80.0%	112.0%		
		(22)連携企画対象団体	85件	91件	107.1%		